
鬼ごっこをしよう!?

咲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鬼ごっこをしよう!?

【Nコード】

N6717A

【作者名】

咲

【あらすじ】

ちよつと聞いてよ…私ね…次赤点とつたらさ…携帯止められるんだって…ありえないよねッ!?怒好きなさいとに行く事も彼氏とメーイルする事もできないんだよ!?…彼氏いないけどね。そんなテスト期間中…私に悲劇が舞い降りた…!!もお!!まぢありえない!!怒

プロローグ

私立八秘学園。初等部、中等部、高等部と続くエスカレーター式の学校。

『八秘』の、秘は『秘密』の秘。

この学園の創立者が死ぬ時に8つの秘密を残した為にこの名前がついたのだという。

この学園に8つ全ての秘密を知るものはいない…。

ハッピーアイスクリームとか懐しくね？

高校生になって4回目の定期テスト。

前回、数学と英語と地理が赤点だった。一年の最後だからツて気を抜きすぎた。

…しかし今回はやばい！！

私の命とも言える携帯を止められてしまう！！それだけは避けなくてはならない！！

だから私はこんなに勉強してると言っのにつ…！！

「ねー？麗「うらら」ちゃんってばあー？ねーねー聞いてるー？」

「…なあに…？」

忙しいと言ってるそばから、燕「つばめ」が話しかけてくる。「今、ひまあ？」

「あのねえ…見りやわかるでしょ！！私は忙しいの！！勉強中なの！！わかるっ！？」

「えー、いいじゃんー？ねー、ひまあ？」

「だから…」

とりあえず一発なくっちゃろうかと思った所に、後ろから由亜が来て、数学のノートでペコツと燕を叩いた。

「ほら燕。麗は勉強中なんだから、邪魔しないの。」

「だってえー」

「トイレでも行きたいの？私がついてってあげるから…。」

ちよつとバカにしつつ由亜が燕に聞いた。

「違っよっ！！…鬼ごっこがしたいの！！」

「…ハア？」

由亜とハモってしまった。ハッピーアイスクリーム。アイスおごつてね。

「あんだ、なにいつてんの？今、テスト前だよ！？」

「だってやりたいんだもん！！ちなみにうちがやりたいのはフツ一の鬼ごっこ！色鬼とか高鬼じゃないやつ」

「私的には…色鬼が好き…。…ってちがくて！！ほんと何回も言うけど、今テスト前！！二ホンゴワカル？どーせだったらいつも10位以内に入ってる雪花とか誘って来なさいよ！」

「わかったあ…雪花ちゃんと綾音ちゃん誘ってくるよ。綾音ちゃん頭いいよね？麗ちゃん誘ったうちは麗ちゃんよりおバカさんだあ」
「まだで殴ってやろうかと思った。しかし、こいつの場合天然だから殴れない……。」

ぴよんぴよん嬉しそうに飛び跳ねてったハズの燕は、トボトボと雪花達の所から戻ってきた。

「どうだったの？」

「うー、綾音ちゃんはそんな子供の遊びには付き合えないってエ。

雪花ちゃんは頭いいのに…勉強するから…。だって…」

「そりゃ、そうでしょ。テスト前に鬼ごっこやる奴なんて頭おかしいわよ。」

フフンと由亜が鼻で笑った。

「そーそーあんだも静かに勉強してなさい。」

「ぶうー…わかったよー…」

しかしその1分後に入るアナウンスの内容を誰も知るよしもなかった……。

悪いけど…まだで勘弁して下さい。

ピンポンパンポン

(校内アナウンス?)

『お、お知らせ…です』

(声が震えてる?)

『ただ今より…』

(ただ今より…?)

『全校生徒絶対参加の…』(はあー?避難訓練なんか?勉強できないじゃん。)

『鬼ごっこを開始します!!』

(は?)

……………?

「はあ

!?’」

全校生徒が一斉に驚きの声。

…いや違う。一人だけ違う…。私の隣で目を輝かしてる奴がいるっ!!

『お静かにお願いします…。これよりルール説明を致します。ルールは簡単。午後12時きっかりに、3人の鬼を離します。鬼の目印は1つ。背中に大きな鎌をしょっています。時間制限はなく最後まで鬼に捕まらなかつた方が勝者となります。』

今度は学校中シーンと静まり返った。

みんな意味がわからなすぎて、ポカーンとなってるようだ。

「ちよつとフザけないでよ!?!なんでテスト前に全校参加の鬼ごっこなのよ!?’」

「わーい!!やったあ!!」

「あーもう!!ちよい燕黙りなさい!?!これで赤点とつたらどーすんのよ!!私の携帯どーなるの!?’」

半分もう泣きそうな目で訴えてみたが放送室まで届くわけがない。

「家に帰ればいいんじゃない？」

由亜が静かに言う。

「あ、そっか」

なあんだコレで勉強できるじゃんと思安した所にまたアナウンスが
はいつた。

『こちら放送室では、捕まった方の名前を発表していきます。ちな
みにこの鬼ごっこはみなさまのやる気を出す為にあるものを賭けて
おります。』

(…あるもの？)

『成績です。』

(…は？)

「はあ

！？」

まーたまた全校生徒驚きの声。

『最初の方に捕まった方の失点は大きく、最後の方まで残った方々
は失点が少なくなっております。』

(り、リタイアの道もふさがれた…。)

どうやったら最後までその『鬼ごっこ』とやらで捕まらないか考え
ていると、由亜が口を開いた。

「麗…。」

「ん？なに？」

「ここは協力しましょう。」

「う、うん」

珍しく由亜がやる気になったのを見た。

「ふう」

と一息、深呼吸をするところりと振り返って由亜はいつもどりの
ハキハキした口調で言った。

「雪花！綾音！燕！あんたらもよ！ここはグループで行動する方が、
有利よ！！」

うんうん。一人だと怖いし。鎌持って追いかけられるのは誰だって

怖い……。

「あと……雨月！あんたも来て！」

「え？うちも？」

「そうよ！陸上部エースのあんたなら鬼から逃げ切れる！ガンバレ！」

（あー……オトリって事……？）

雨月は、由亜に利用されようとしているを知らずに、上機嫌で答えた。

「そうだね！私エースだもんね！ガンバル！」

「そうよ！がんばって！」

……悪魔の女、笠木由亜。こいつには絶対逆らえない。

11時45分。

スタートマデ15分。

私達6人は、私達の教室2ーBのクラスがある、1号館から2号館にある音楽室に向かおうと、渡り廊下をパタパタと走っていた。

あれからまたアナウンスで鬼のスタート位置が発表された。

1の鬼は2号館の理科室から。

2の鬼は校庭の真ん中から。

3の鬼は1号館の3ーBの教室から。という事だった。

私達が音楽室についた時、時刻は11時54分。

2号館にはあまり生徒がいなかった。

「ねえ、こんな鬼のいる2号館なんかにいていいの？しかもこんなはじっこ……。」

「はあ……。」

由亜はわざとつぼく大きな溜め息をついた。

「だから麗はバカなのよ……。」

カチンときたが、由亜相手では言い返す事もできない。

そして由亜はぴつと右手のひとさし指で私の後ろをさした。

「？」

ふりかえるとそこには、分厚い防火扉があった。

「…もしかして…？」

「…そう！コレを閉めて鬼をこさせなくするのよ」

今度は左手でパチンつと指をならした。すると優等生代表の雪花が重たい音と共に、防火扉を閉めた。

「完了です。」

そして時刻は12時となった。

私の長い長い「？」戦い「！？」が始まった……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6717a/>

鬼ごっこをしよう!?

2010年10月30日23時23分発行